

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

No.33

2020/03/30

りそなホールディングス 市場企画部



◆ 今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは3月30日(月)9:00現在
※休日の実績は前営業日

◆ 今月の注目ポイント

		3月27日現在 (矢印は2月末比)	4月の予想	
為替相場	ドル・円 (円)	⇒ 107.94	下落 ↘	104.00 ~ 112.00
	ユーロ・円 (円)	↗ 120.29	横ばい ⇒	117.00 ~ 122.00
株式相場	日経平均 (円)	↘ 19,389	横ばい ⇒	17,000 ~ 21,000
	NYダウ (ドル)	↘ 21,637	上昇 ↗	19,000 ~ 24,000
長期金利	日本 (%)	↗ 0.005	横ばい ⇒	-0.10 ~ 0.10
	米国 (%)	↘ 0.67	横ばい ⇒	0.50 ~ 0.90

新型コロナウイルスのピークアウト時期を見極め

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	◎	【景気】新型肺炎の実体経済への影響を注視。 先日発表された米国の3月第3週目の新規失業保険申請件数は、統計開始以来最高となる328.3万件となった。1日発表のISM製造業景況指数や、3日発表の雇用統計についても大幅な悪化が予想される。市場は既に弱い数字は織り込み済みと見られ、指標自体のマーケットへのインパクトは限られると見るが、新型コロナウイルスの米国経済への影響度合いを見る上で、注目される。
金融政策	○	【各国中銀】動向に注目。 FRBは3月に緊急の利下げを2回行い、政策金利を実質ゼロ金利とした。また無制限のQE(量的緩和)や、各種流動性への対策を発表。各国中銀も迅速に対応している。新型コロナウイルスの感染拡大が継続する中では、金融政策の効果はすぐには出づらいつの、収束の兆しが見られた場合には、各国中銀による緩和の効果は徐々に表れよう。
政治	◎	【新型肺炎リスク】 新型コロナウイルスは全世界でパンデミック状態となっており中国は明確にピークアウトする一方、米国が感染者数世界一となった。多くの国で経済活動や人々の往来が制限されるなどしている。足元日本でも感染者数が増加基調となり、外出自粛が促されるなどフェーズが変わってきている。4月中には全世界でピークアウトに向かうと見るが、経済活動の制限が長引く程実体経済への悪影響が深刻化しやすく、慎重に動向を注目したい。 【米国大統領選挙】 足元でトランプ大統領の支持率が上昇。米国政府が過去に類を見ない2兆ドルもの大規模な財政政策を打つことが好感され、足元でトランプ大統領の支持率が急上昇している。株価がトランプ相場以前の水準まで下落する中、今後の政策が同氏の再選へ大きく影響を及ぼすだろう。民主党候補はバイデン氏(中道)がほぼ確実視される中で、対立候補のサンダース氏(リベラル)の撤退動向にも注目が集まる。

今月の見通し

為替	【ドル円】ドル円は下落を予想。 各国中銀の協調によるドル供給で、ドルの逼迫感が徐々に薄らいでおり、ドルの上値は重い。一方、米国の巨額の財政出動は、中期的にドル高要因。ドルが一方向に売られる展開でもないであろう。 【ユーロ】ユーロドルは上昇、ユーロ円は横ばい。 各国中銀のドル供給により、ドルの逼迫感が薄らいでおり、ドルの上値は重く、ユーロは底堅いであろう。一方、ドル円の上値は重く、ユーロ円は方向感が出づらいつ。
株式	【日本株】日本株は横ばい。 足元で世界に遅れて首都圏の新型肺炎の感染が拡大しつつあり、オーバーシュートも懸念される中で、日本株の上値は重いと見る。一方で、日銀による年間12兆円ペースでのETFの買入は相応のインパクトもあることから、下値も限定的となろう。 【米国株】米国株は上昇。 足元で感染が急速に広がるなか、VIX指数が高止まりするなど、目先は不安定な地合いとなりやすい。一方、米国政府による2兆ドルの大規模財政出動への期待がくすぶることや、経済活動への大幅な制限により、感染拡大に一服感が見られる可能性があることから、徐々に底堅さを取り戻そう。
長期金利	【円金利】日本国債は金利横ばいを予想。 財政出動による増発懸念はくすぶるものの、金利上昇局面では日銀による積極的な買入オペレーションが入りやすく、金利上昇余地は限定的であろう。米金利に沿った動きで方向感はいくにくいであろう。 【米金利】米国債は金利横ばいを予想。 FRBによる積極的な国債やMBSの買入により、金利は低下しやすいつ。一方で、一段の利下げ余地が限定的であることや米政府が2兆ドル規模の財政出動を可決し、財政拡大の思惑がくすぶり、金利低下余地も限定的となろう。

◆ 今月の重要日程

1日(水)	日	日銀短観(3月調査・概要)	23日(木)	欧	4月PMI
1日(水)	米	3月ISM製造業	24日(金)	日	3月CPI
3日(金)	米	3月雇用統計	28日(火)	日	日銀金融政策決定会合
10日(金)	米	3月CPI	29日(水)	米	20/1Q GDP速報
15日(水)	米	3月小売売上高	29日(水)	米	FOMC(結果発表)
17日(金)	中	20/1Q GDP	30日(木)	欧	ECB理事会(結果発表)

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

2020/03/30



◆ 今月の相場見通し① 為替

ドル 円

米ドル・円



ドル・円は下落

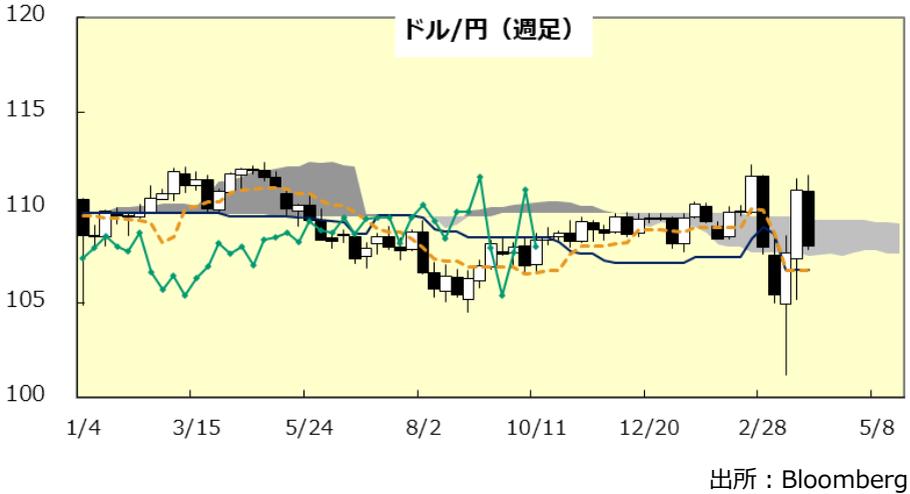
104.00 - 112.00円

ドル円は下落を予想

3月のドル円の値動きは、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大によるリスクオフムードの高まりから、一時2016年11月以来の101円台を付ける場面もあったが、ファンド等の換金売り等が加速すると一転、ひっ迫するドルへの需要から急速にドル高が進行し、111円台へ。その後各国中銀によるドル流動性供給が決定されたことで2月末比横ばい水準までドル高が修正され、落ち着きを取り戻した。

各国中銀によるドル流動性供給やFRBによる無制限の資産買入が続くなかで、米国での新型コロナウイルス感染拡大も継続しており、ドルは上値の重い展開が想定される。一方で、3/27にトランプ大統領が署名した2.2兆ドル規模の財政出動は、中期的なドル高要因。一方向にドルが売られる展開ではないであろう。

但し、足元では世界に遅れて日本の感染拡大が懸念される状況。このままオーバーシュートが回避できれば良いが、万が一日本での感染が爆発的に増えた場合には、日本をアンダーウエイトする動きから一時的に円安に振れる場面も想定され、注意が必要と見る。



ユ - 円

ユーロドル



ユーロドルは上昇

1.07 - 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は横ばい

117.00 - 122.00円

ユーロドルは上昇、ユーロ円は横ばいを予想

3月の値動きは、ドルが政策的な思惑から値振れ激しい動きとなる中で、ユーロも値動きの荒い展開となった。直近では、各国中銀による積極的なドル資金供給により、ドル需給の逼迫感が薄らぎ、ユーロは上昇。先行して感染拡大している中国では生産が回復しつつある。中国との経済関係の強い欧州にはポジティブな材料であろう。

一方で、米国は2兆ドル規模の財政出動を決めている。中期的には米国の大規模財政出動による景気回復期待がくすぶりやすく、ドルの下支えとなりやすい。一方向にドルが売られる展開とはなりにくいであろう。

ユーロ円はユーロドルが底堅い一方、ドル円の上値が重く、横ばい圏での推移が見込まれる。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

2020/03/30



◆ 今月の相場見通し② 株式、長期金利

株式見通し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

17,000 - 21,000円

日本株は横ばい。

足元で世界に遅れて首都圏の新型肺炎の感染が拡大しつつあり、オーバーシュートも懸念される中で、日本株の上値は重いと見る。一方で、日銀による年間12兆円ペースでのETFの買入は相応のインパクトもあることから、下値も限定的となろう。

NYダウ

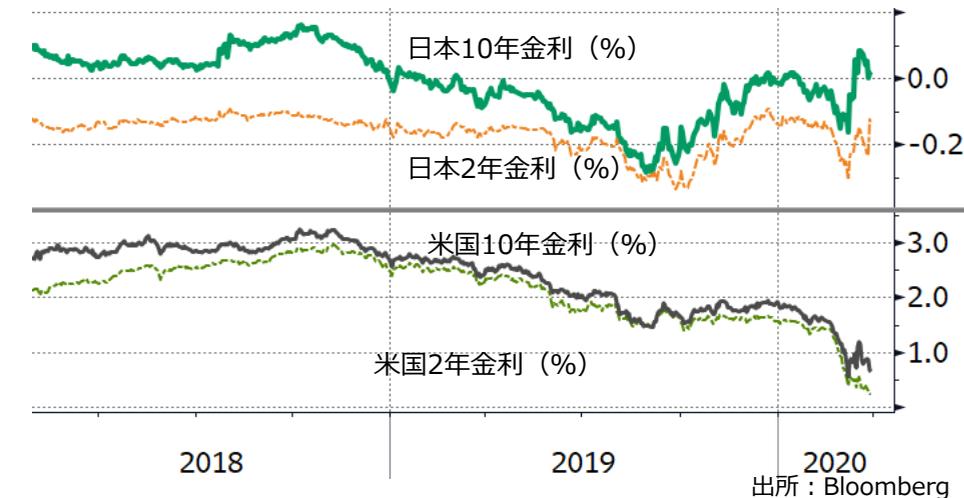
⇒ ダウは上昇

19,000 - 24,000ドル

米国株は上昇。

足元で感染が急速に広がるなか、VIX指数が高止まりするなど、目先は不安定な地合いとなりやすい。一方、米国政府による2兆ドルの大規模財政出動への期待がみられることや、経済活動への大幅な制限により、感染拡大に一服感が見られる可能性があることから、徐々に底堅さを取り戻そう。

長期金利見通し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

▲0.10 - 0.10%

日本国債は金利横ばいを予想。

財政出動による増発懸念はくすぶるものの、金利上昇局面では日銀による積極的な買入オペレーションが入りやすく、金利上昇余地は限定的であろう。米金利に沿った動きで方向感が出にくいであろう。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.50 - 0.90%

米国債は金利横ばいを予想。

FRBによる積極的な国債やMBSの買入により、金利は低下しやすい。一方で、一段の利下げ余地が限定的であることや米政府が2兆ドル規模の財政出動を可決し、財政拡大の思惑がくすぶり、金利低下余地も限定的となろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

2020/03/30



◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
4/1(水)	1-3月期日銀短観	2月建設支出 3月ADP民間雇用調査 3月ISM製造業景況感指数	
4/2(木)	10年債入札 3月マネタリーベース	2月貿易収支	
4/3(金)	国庫短期証券(3ヶ月)	3月雇用統計	(EU) 2月小売売上高
4/7(火)	2月毎月勤労統計 30年債入札	2月消費者信用残高	(豪) 準備銀行理事会
4/8(水)	2月機械受注 2月国際収支 3月景気ウォッチャー調査		
4/9(木)	3月消費動向調査 5年債入札 国庫短期証券(6ヶ月)		
4/10(金)	3月貸出・預金動向 国庫短期証券(3ヶ月)	3月CPI	(中) 3月CPI
4/13(月)	3月マネーストック	3月財政収支	(中) 3月貿易統計
4/14(火)	流動性供給入札(残存期間 15.5年超39年未満)	3月輸入物価指数	
4/15(水)		2月企業在庫 2月対米証券投資 3月鉱工業生産 3月小売売上高 4月NY連銀製造業景況感指数	

	日本	米国	その他
4/16(木)	国庫短期証券(1年) 流動性供給入札(残存期間5年 超15.5年以下)	3月住宅着工 4月フィラデルフィア連銀製造 業景況感指数	(EU) 2月鉱工業生産 G20財務大臣・中央銀行総裁 会議(～17日、ワシントン)
4/17(金)	2月稼働率 国庫短期証券(3ヶ月)	3月景気先行指数	(中) 1-3月期四半期GDP (中) 3月固定資産投資 (中) 3月鉱工業生産 (中) 3月小売売上高
4/20(月)	3月貿易統計	3月シカゴ連銀全米活動指数	
4/21(火)	20年債入札	3月中古住宅販売件数	(独) 4月ZEW景気期待指数
4/22(水)			
4/23(木)	2年債入札	3月新築住宅販売	(EU) 4月ユーロ圏PMI
4/24(金)	3月CPI 国庫短期証券(3ヶ月)		(独) 4月IFO景況感指数
4/27(月)	日銀金融政策決定会合(～28 日)		
4/28(火)	3月雇用統計 黒田日銀総裁定例会見 日銀展望レポート	2月S&P/フィッツCS住宅価格 指数 4月リッチモンド連銀製造業景 況感指数 FOMC(～29日)	
4/29(水)	(昭和の日)	1-3月期GDP速報値 3月中古住宅販売成約指数	
4/30(木)	3月鉱工業生産 3月住宅着工件数 4月消費動向調査	3月個人所得・消費支出	(EU) ECB定例理事会 (中) 4月PMI製造業

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

2020/03/30

りそなホールディングス 市場企画部

◆ 景気の現状 日本

日本経済は、個人消費や欧米向けの外需が弱く弱含み局面。新型肺炎警戒により、インバウンドの落ち込みや2月末以降の自粛ムードによる経済悪影響も発生。先行きは欧米の経済活動停止による外需減少も懸念される。

鉱工業生産

1月の前月比	1.0%	
生産予測	2月：5.3%	3月：▲6.9%

1月は前月比+0.8%。先行きは新型肺炎の影響が懸念される
(2月分は3/31公表)

貿易統計

	1月	2月
貿易収支		11,088億円
輸出(前年比)	▲2.6%	▲1.0%
輸入(前年比)	▲3.6%	▲13.9%

2月の輸出は前年比▲1.0%、欧州や米国向けの輸出に弱さがみられる
先行きは新型肺炎による欧米の経済活動停止の悪影響が懸念される

景気ウォッチャー調査

	1月	2月
現状判断DI	41.9	27.4

現状判断DI、先行き判断DIともに前月から大幅低下。調査期間の2月末には新型肺炎による自粛モードが広がり、急速に厳しい見方が強まった

機械受注

	前月比	金額
1月の民需コア	2.9%	8,394億円

前月比+2.9%と予想に反して増加。1月分は持ち直しの兆しがみられたものの、先行きは新型肺炎による景気悪化で設備投資は下振れする見通し

全国消費者物価指数(前年比)

	1月	2月
総合	0.7%	0.4%
コア (除く生鮮食品)	0.8%	0.6%
コアコア (除く生鮮食品・エネルギー)	0.8%	0.6%

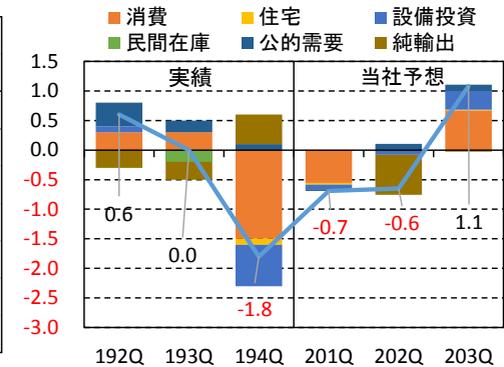
原油安によりエネルギー価格が下落。またエネルギーを除いたコアコア指数も伸びを縮小。世界的な景気停滞懸念から、先行きも下方バイアスが強い

★ GDP見通し ★

・10-12月期は前期比▲1.8%、消費増税に暖冬や台風の影響が重なり、大幅なマイナスとなった。1-3月期も、2月下旬以降新型肺炎による自粛ムードが広がりマイナス成長の見通し。

・新型肺炎の感染拡大に終息が見通せず、特に欧米の経済活動停止から4-6月期は外需が大幅に減少するとみられ、3期連続のマイナス成長の見通し。日本でも今後情勢が悪化し都市封鎖のような事態となった場合更なる下振れリスク。7-9月期以降は急速に回復し、2020年度は前年比▲1.0%と予想するが、新型肺炎の動向次第で見通しに不透明感強い。

内訳は寄与度 (%,%pt)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
	実績	予測	予測	予測
実質GDP	0.3	0.0	-1.0	1.2
個人消費	0.0	-0.3	-0.5	0.8
住宅投資	-0.1	0.0	-0.0	0.0
設備投資	0.3	-0.1	-0.2	0.2
在庫投資	0.0	-0.1	-0.1	0.0
公的需要	0.2	0.6	0.3	0.1
外需	-0.1	-0.2	-0.5	0.1



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

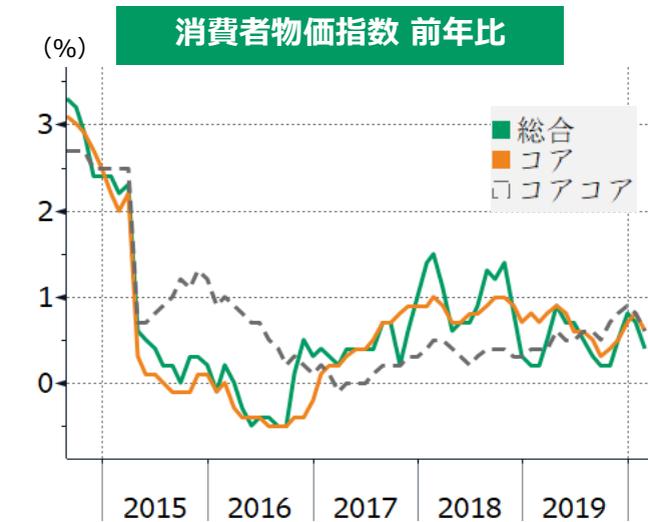
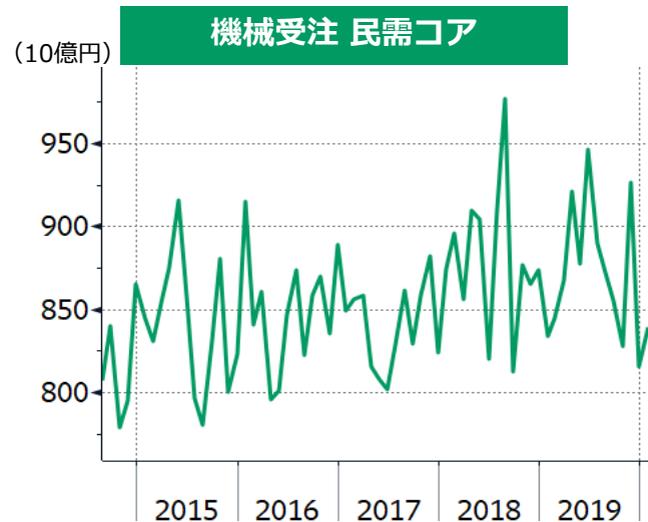
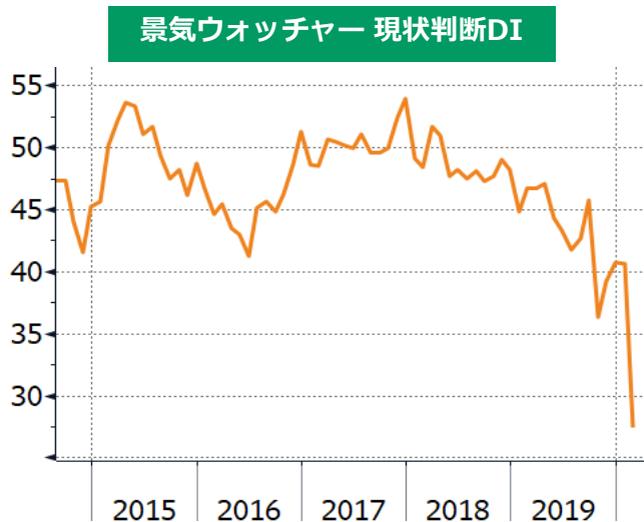
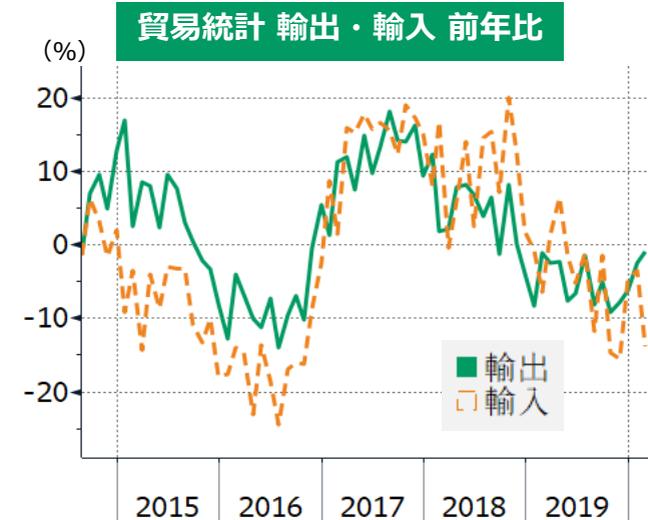
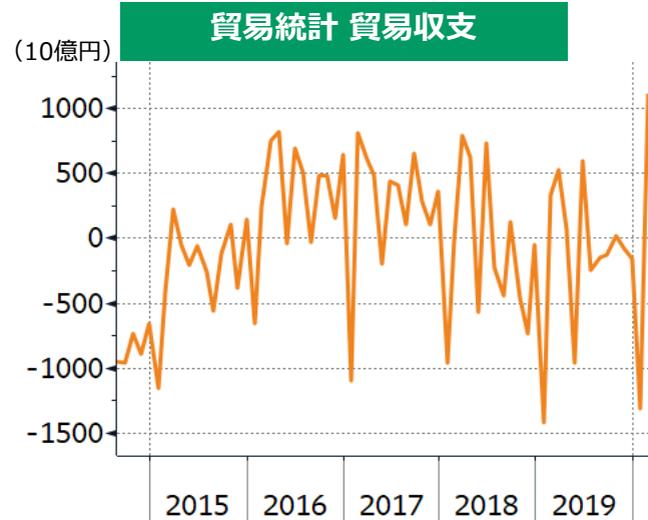
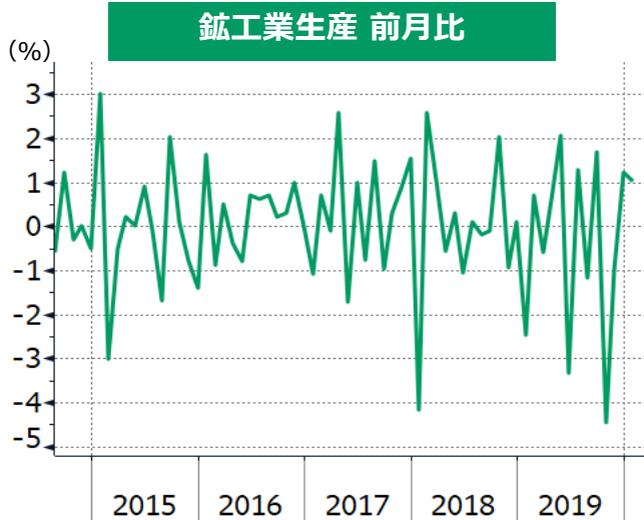


りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年4月号)

2020/03/30
りそなホールディングス 市場企画部

(出所：Bloomberg)

◆ 日本 チャート集



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2020年4月号)

2020/03/30



◆ 景気の現状 米国

公表済の2月指標までは底堅い経済状況が確認されているものの、足元の米国経済情勢は外出制限とレイオフの影響で急速に悪化。4-6月期は記録的なマイナス成長となる見通し。

小売売上高	
2月の前月比	▲ 0.5%

ガソリン売上（価格下落）の減少等が要因も、コア部分も低調な伸び。3月以降は新型肺炎の影響で大幅な下振れが予想される

雇用統計	1月	2月
非農業部門雇用者数（前月差）	+27.3万人	+27.3万人
失業率	3.6%	3.5%
平均時給（前年比）	3.1%	3.0%

2月までの雇用情勢は非常に良好な内容。但し、新型肺炎の影響で足元は急速なレイオフが進んでおり、4月以降の指標で急速な悪化が予想される

消費者物価指数（前年比）	1月	2月
総合	2.5%	2.3%
コア （除く食品・エネルギー）	2.3%	2.4%

新型肺炎の影響が生じる前の段階では物価動向の堅調な伸びが確認されたが、先行きは物価の下振れ圧力が強まる

ISM製造業指数	1月	2月
	50.9	50.1

2月指標では新型肺炎の影響は限定的、3月以降大幅な悪化が予想される。製造業より非製造業の景況感悪化が顕著とみられる

◆ 景気の現状 欧州・中国

欧州では新型肺炎拡大で経済活動が大きく制限され急速に情勢が悪化。中国は2月指標が軒並み悪化も、3月以降は徐々に企業活動が再開され先行きは持ち直しが期待される。

ドイツ	前月比	
1月の鉱工業生産	3.0%	
1月の小売売上高	1.0%	
	2月	3月
IFO企業景況感指数	96.0	86.1
ZEW景況感指数	▲ 15.7	▲ 43.1

3月の企業景況感は新型肺炎拡大による経済影響が懸念される中で大きく下振れ

ユーロ圏	1月	2月
CPI（前年比）	1.4%	1.2%
	2月	3月
総合PMI	51.6	31.4
製造業PMI	49.2	44.8

欧州各国で新型肺炎感染拡大が深刻化。経済封鎖の影響でサービス業の落ち込みが顕著となり、3月の総合PMIは過去最低

中国	12月	1・2月
鉱工業生産（前年比）	6.9%	▲ 13.5%
小売売上高（前年比）	8.0%	▲ 20.5%
固定資産投資（年初来前年比）	5.4%	▲ 24.5%
貿易統計（輸出：前年比）	7.6%	▲ 17.2%
	1月	2月
製造業PMI	50.0	35.7

1・2月の指標が軒並み悪化。3月以降徐々に企業活動の再開も伝わるなかで、3/31に発表される3月PMIの改善が注目される

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



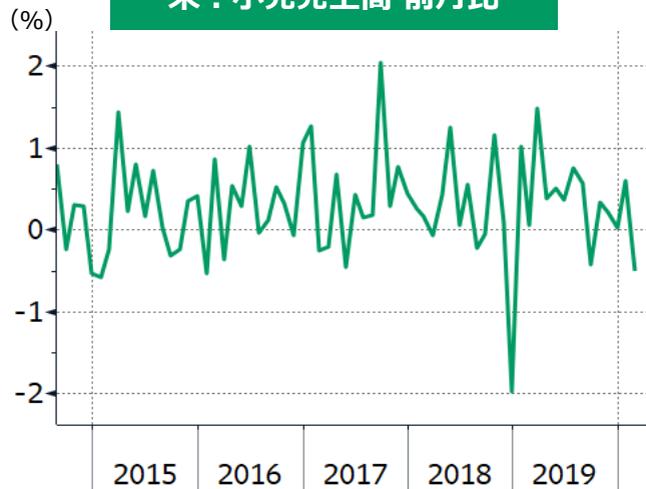
りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2020年4月号)

2020/03/30
りそなホールディングス 市場企画部

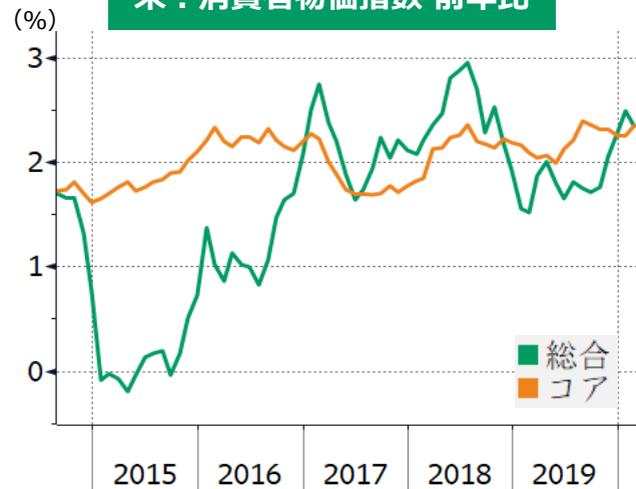
(出所：Bloomberg)

◆ その他 チャート集

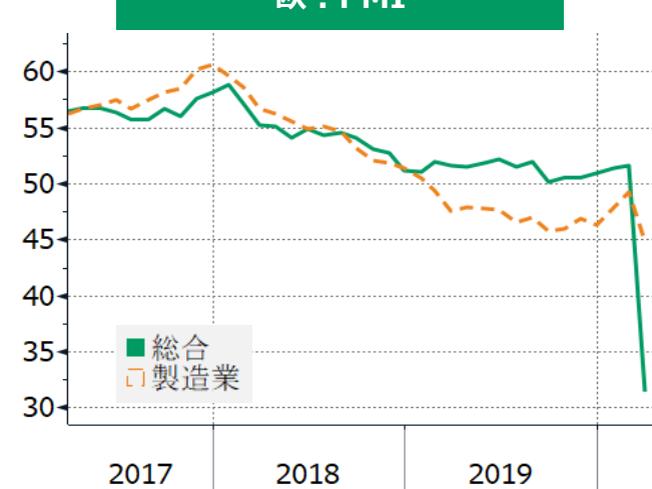
米：小売売上高 前月比



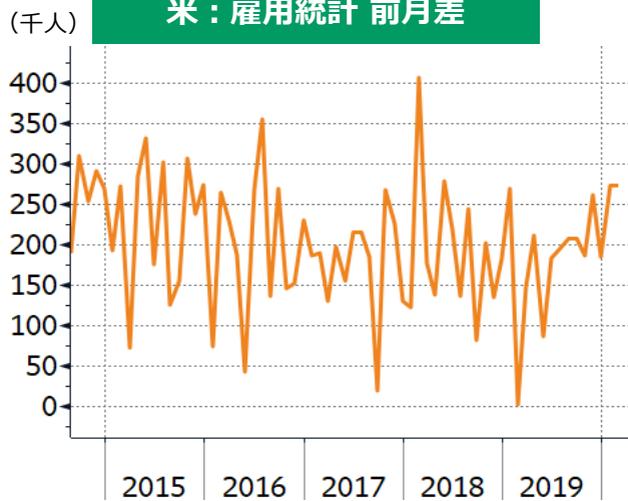
米：消費者物価指数 前年比



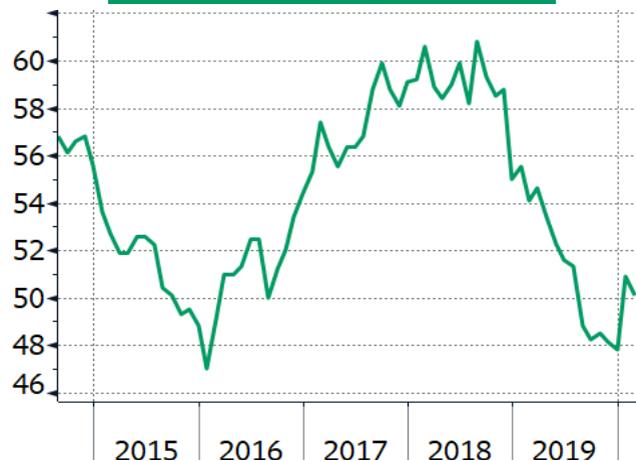
欧：PMI



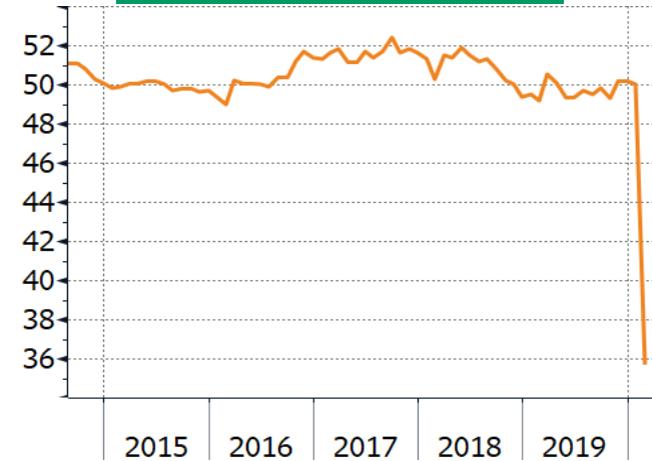
米：雇用統計 前月差



米：ISM製造業指数



中：製造業PMI



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。